

一般社団法人コミュニティシネマセンター

平成26年度(2014年度) 事業報告

1. 受託事業

[1] 地域の映像文化を担う人材を育成する-

映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ 2014

(文化庁 平成26年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

平成15年(2003)に出された、映画振興に関する懇談会による提言「これからの日本映画の振興について」の理念がどのような形で施策として具体化されてきたかを考え、将来的に、特に「上映」分野において提言が目指していることを実現するためには何が必要なのか、上映者が求める振興策はどのようなものなのかを、ワーキング・グループを中心とした調査、上映関係者を主たる対象としたワークショップやシンポジウムを通して考え、報告書を作成した。

映画館のデジタル化の完了とともに、浮上しているフィルム文化の継承、フィルムでの上映環境の確保という課題の解消を目指すFシネマ・プロジェクトでは、ヒヤリングやアンケートによる調査を実施、ワークショップを開催した。

さらに、平成25年度のワークショップの成果を発表するための受講生による修了企画、東日本大震災の被災地において、新しい街づくりの中で地域の映画映像文化を担う人材を育成するためのワークショップ、“若年層の観客開拓”等をテーマとする映画教育プログラムも継続的に実施した。

(1) 映画上映振興プラン立案ワークショップとシンポジウムの開催

①映画上映振興プラン立案のためのリサーチとワークショップ

- ・ワーキング・グループで、定期的にミーティングをもち(11回)、諸外国における映画上映支援策と国内の映画上映活動の状況を調査し、現状を分析するとともに、映画上映振興策のモデルプランを策定した。
- ・公開ワークショップにおいて、参加者(育成対象者)の上映事業の現状や振興策についての意見を聞き、プランの策定の参考とした。

ワークショップ

10月23日(木) ※全国コミュニティシネマ会議2014にて 東京国立近代美術館フィルムセンター

地域の映画館と映画上映振興策(「セッション1:コミュニティシネマとしての映画館」)

映画祭と映画上映振興策(「セッション3:コミュニティの中の映画祭の可能性」)

2015年3月2日(月) 松竹京都撮影所内 立命館松竹スタジオ

望ましい映画上映振興策を考えるワークショップ in 京都

② シンポジウム/全国コミュニティシネマ会議

会場: 東京国立近代美術館フィルムセンター

テーマ: 「スクリーン体験 フォーエバー! 私たちはスクリーンで映画をみたい/みせたい」

内容:

トーク 香川京子(女優)/聞き手 田井肇

プレゼンテーション コミュニティシネマセンター

ディスカッション 司会: 川村健一郎 パネリスト: 太下義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センターセンター長)/志尾睦子/藤岡朝子(山形国際ドキュメンタリー映画祭理事) 吉田大八(映画監督)

事例報告: CINEMA AMIGO(逗子市)/みやこほっこり映画祭(宮古市)/横浜シネマリン(横浜市)/御成座(大館市)

参加者: 240人

③ 報告書の作成

リサーチの成果、ワーキング・グループの活動報告、シンポジウム、ワークショップの採録等を掲載した報告書（A4判54ページ）を編集・発行した。

(2) フィルムの上映環境を確保する「F シネマ・プロジェクト」

① フィルム上映の現状に関する調査

調査協力者（2名）とコミュニティシネマセンターとで定期的にミーティングを行い、フィルム上映の現状について情報を整理するとともに、アーカイブ、配給会社、現像所、映画館等にヒヤリング調査、映画館、公共ホール等へのアンケート調査を実施した。

ヒヤリング調査

大島電機（元新響技術者）/鈴木映画/飯田橋ギンレイホール/日本大学芸術学部映画学科/有限会社シネマトグラファー/塚口サンサン劇場/元町映画館/JVC ケンウッド・アークス/フリーメンテナンス業者（元ビクター技術者）/ニューヨーク近代美術館キュレーター/京都映画センター（映画センター全国連絡会議）/映機工業 ほか

② ワークショップ「F シネマ・プロジェクト～フィルムの上映環境を確保するために」

10月23日（土）※全国コミュニティシネマ会議 2014にて 東京国立近代美術館フィルムセンター
司会：内藤篤（シネマヴェーラ渋谷館主） とちぎあきら（東京国立近代美術館フィルムセンター映画室長）/新藤次郎（株式会社近代映画協会社長）/高木希世江（日活株式会社）
Fシネマ・プロジェクト調査・資料作成スタッフ 神田麻美、西川亜希

(3) 映像教育プログラム～若年層の観客開拓プログラムの共同制作

子ども、若年層を対象とする上映会やワークショップを川崎市アートセンター、シネマ尾道と共同で実施した。

① シネマ尾道 2015年3月15日(日)

みんなで映画の話をしよう『裸の島』編/高校生映画のワークショップ@尾道 2015

映画を通じ、尾道の高校生が高齢者と一緒に体験と交流、対話の中で、異世代の文化や多様な価値観を学ぶ。高齢者は高校生との触れ合いの中で、生きがいを感じ、今の時代の感性を知る。高校生と高齢者が一緒に映画のしぐみを体験しながら交流を深め、映画と一緒に鑑賞する。尾道の大家である高齢者に歴史と文化を語ってもらうことで、高校生は知らない時代を深く知り、映画と地元を深く学ぶ。

上映作品『裸の島』1960年/日本/95分 監督 新藤兼人 出演 乙羽信子、殿山泰司

講師：北村眞悟/坊坂真由子(尾道子ども映画ワークショップスタッフ)

ワークショップ参加者 尾道市内高校生5名 一般参加者 56名

② 川崎市アートセンター 2015年3月15日(上映会準備)/ 3月29日(上映会)

放課後シアターvol.5 イロイロぬくもりの記憶

若年層を対象に世界のさまざまな映画の鑑賞をとおして、多様な世界に触れる機会を設ける。センタースタッフの助言のもと、上映後のディスカッションを通じ、参加者は作品への考察を深めると同時に「放課後シアター」の中で自らの意見を発信する。映画を鑑賞するだけでなく、作品にあわせ、配給の専門家、映画監督など映画について映画の第一線で活躍するゲストを呼ぶことで、商業的でない映画作品にも興味を持つような企画を行う。

上映作品：『イロイロ ぬくもりの記憶』シンガポール/2013年/99分/デジタル/カラー/北京語・英語・タガログ語 監督・脚本：アンソニー・チェン

講師：市山尚三（東京フィルメックス プログラム・ディレクター）

ワークショップ参加者 5名 一般参加者（上映会）50名

(4) アートマネージメントワークショップ イン 東北

東日本大震災で被災した宮古市、石巻市で映像文化事業に携わっている人、あるいは今後文化事業をや

りたいと考えている人、学生などを対象に、企画書予算書の作成～広報～イベントの実施といった一連の作業を、ワークショップとして実施した。

① 石巻市 春のわくわくワークショップ「石巻”タイムマシン”紙芝居」

2015年3月15日（日）会場：石巻市こどもセンターらいつ

石巻の街なかを映した古い写真を数枚選んで、そこに移っている人のセリフや、ものがたりなどを想像してシナリオをつくり、その写真をスライドショーのようにプロジェクター上に展開しながら紙芝居のような形式で発表する。子どもたちに映画作りの原点を体験してもらうワークショップ。

講師・企画協力・ファシリテーター：星野諭（NPO法人コドモ・ワカモノまちing）

運営協力・機材操作スタッフ・チラシデザイン：ISHINOMAKI2.0

ワークショップ参加者 12名 運営スタッフ（育成対象者）5名

② 宮古市 映像アートマネージャー養成講座 in 宮古「みんなの上映会をつくろう！」vol.2

これからの地域づくりに多様な担い手を必要とする被災地において、映画上映や映画づくりの専門性から学びながらも、それに限定されない文化的な側面から地域づくりを支える担い手を育成することを目的とする。専門家の講義やワークショップに参加し、上映会の企画から実施までを体験する。

2月14日（土）10:30～15:00「映画のしごとを知ろう！」

講師：榎桁一則（みやこシネマリー）、土肥悦子（こども映画教室/金沢シネモンド）、志尾睦子（シネマテークたかさき/高崎映画祭）

2月15日（日）10:30～15:00「上映会を企画しよう！」

講師：金野侑（ほっこりみやこ映画祭）松村豪太（ISHINOMAKI2.0）立木祥一郎（TECO.LLC）

2月22日（土）10:30～15:00「上映会を知らせよう！」

講師：岩見信吾（岩手県NPO活動交流センター）ほか

3月14日（土）上映会 10:30～18:00

上映作品：『ぼくたちの家族』（2013/石井裕也監督） ゲスト：石井裕也

運営協力：みやこシネマリー、みやこラボ

場所：マリンコープDORA 会議室、みやこシネマリー 1（85席）

ワークショップ参加者：14人 上映会参加者：53名

(5) 第7期シネマ・マネジメント・ワークショップ 修了企画の実施

平成25年度に9ヶ月間開講した「シネマ・マネジメント・ワークショップ」の修了企画の中から選ばれた「映画とCMの『境目/さかいめ』にある未来」をブラッシュアップし企画を作成、上映会を実施した。

プログラム概要

上映作品：

『ÉMOTION=伝説の午後・いつか見たドラキュラ』（大林宣彦監督、38分）

『腑抜けども、悲しみの愛を見せろ』（吉田大八監督、112分）

『ひもかわラブソディ』（中村佳代監督、30分）、KIRINJI PV『進水式』（中村佳代監督、5分30秒）

『パーマネント ランド』（中江和仁監督、30分）

『東京マリーゴールド』（市川準監督、95分）、『漂流姫』（市川準監督、46分）

『HOUSE/ハウス』（大林宣彦監督、88分）

『5人の監督の代表CM集』ほか

トーク・ゲスト：大林宣彦、吉田大八、中村佳代、中江和仁、樋口尚文

上映会入場者：約200人

(6) 全国コミュニティシネマ会議 2014 の開催

2014年10月22日(水)～23日(木) 共催・会場:東京国立近代美術館フィルムセンター

今回の会議は、「スクリーン体験フォーエバー！ 私たちはスクリーンで映画をみたい/みせたい」をテーマに、東京で開催した。上記1②及び③にあるシンポジウム、ワークショップのほか、「MoMA ニューヨーク近代美術館映画コレクション」関連企画として、映画の上映(短篇『ニューヨークの地下鉄』『ニューマン劇場のお笑い漫画』『イタリアン・アメリカン』(部分))と岡島尚志氏(フィルムセンター主幹)による解説を実施した。

[2] ヨーロッパシネマ・ミニネットワーク

フランス・パリに本部を置くヨーロッパシネマ(EUの映画を上映する映画館に対して支援を行うネットワーク組織)には、コミュニティシネマセンター会員館のうち15館がミニネットワークとして加盟している。このネットワークのとりまとめ、ヨーロッパシネマへのレポートの作成等を行った。(2014年で終了)

ヨーロッパシネマ・ミニネットワーク加盟劇場:

広島 シネツイン本通り/シネツイン2 新天町(2013年12月閉館)八丁座 /サロンシネマ

川崎アートセンター/神戸アートビレッジセンター/名古屋 シネマスコレ/名演小劇場/名古屋シネマテーク/桜坂劇場/大分 シネマ5/シネマ5ピズ/シアターキノ/シネマテークたかさき/シネマジック&ベティ

2. 自主事業

[1] シネマエール東北 東北に映画を届けよう！プロジェクト

2011年6月にスタートしたシネマエール東北の活動では、2015年3月末までの約4年間で、553回の上映会を行い、3万人近い人たちに映画を届けることができた。

2014年度も、様々な団体の協力を得て、多様な活動を展開することができた。ポケモン映画制作委員会「ピカチュウプロジェクト」によるポケモン最新作『ポケモン・ザ・ムービーXY「破壊の繭とディアンシー」』を沿岸部の11会場で上映、3000人の子どもたちに最新のポケモン映画を届けることができた。また、2013年度に続き、日本アカデミー賞協会の後援を得て、日本アカデミー賞最優秀作品賞受賞作品の上映会（『舟を編む』『風立ちぬ』『レ・ミゼラブル』）を実施、宮古、石巻、南相馬で、新しい映画を楽しんでもらうことができた。共催者である東日本映画上映協議会の構成メンバー、日本映像職能連合（映職連）による上映会は、2014年度も映画館「みやこシネマリー」で開催した。（『御法度』『探偵はBarにいる』を上映）

仮設住宅での集会所などの上映会については、2014年度も、松竹株式会社、東宝株式会社等から引き続き、無償で作品（DVD）を提供してもらうことができ、これらの作品を中心に、上映する会場の状況、参加者の年齢層や希望に応じて、様々な映画を上映することができた。仮設を出て新しい生活を始める人たちがいる反面、仮設住宅での生活を継続せざるをえない人も少なくない。映画の上映は、高齢者のコミュニケーション、レクリエーション活動、特に自宅に引きこもりがちな男性の高齢者にも関心をもってもらうことができる活動として喜ばれている。

共同開催、現地事務局・実施団体：

岩手県・みやこシネマリー

宮城県・NPO法人20世紀アーカイブ仙台/ISHINOMAKI2.0

福島県・山形国際ドキュメンタリー映画祭/山形県映画センター/フォーラムネットワーク

共催：東日本映画上映協議会

協力：岡田劇場/せんだいメディアテーク/朝日座を楽しむ会

岩手県興行生活衛生同業組合/生活衛生同業組合宮城県映画協会/福島県興行生活衛生同業組合

作品提供（無償）：角川書店/松竹株式会社/東宝株式会社/東映株式会社 ほか

特別協力：東京国際映画祭/公益財団法人ユニジャパン/共同組合日本俳優連合

後援：日本アカデミー賞協会

支援：芸術文化振興基金/ジャパンソサエティ

[2] シネマ・シンジケート プロジェクト

(1) 会員相互割引サービスの開始

コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施（割引金額は各館が任意に設定）。加盟各館の紹介等ネットワークの情報発信ツールとしてフェイスブック・ページ「ツール・ド・シネマ・ジャポン」を設営した。

(2) 配給協力事業

・「ジョンフォード 生誕120年」配給：マーメイドフィルム

『駅馬車』、『静かなる男』 デジタル・リマスター版 2014年9月27日より

加盟館 他 全国37劇場で公開。動員：『駅馬車』—5,950人、『静かなる男』—4,900人

・「フランソワ・トリュフォー没後30年 特集上映」配給：角川映画/マーメイドフィルム

全作品公開 2014年10月11日より

加盟館 他 全国19劇場で公開。動員：19,600人

・「クロード・ランズマン 3作品」配給：マーメイドフィルム

『SHOAH ショア』、『ゾビエル』、『不正義の果て』 2015年2月14日より

加盟館 他 全国20劇場（会場）で公開（予定） 動員：6会場 2,200人（2015年6月25日現在）

・「ポーランド映画祭2015」配給：マーメイドフィルム

高崎映画祭、広島市映像文化ライブラリーで上映
 (以上、4タイトル、コピアポア・フィルムと共同配給)

[3] シネマテーク・プロジェクト /F シネマ・プロジェクト関連企画

(1)「蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集」

Fプロジェクトの一環として、東京国立近代美術館フィルムセンターと共同で、国立のフィルム・アーカイブであるフィルムセンターが復元し蘇らせた日本映画の名作の数々を、35ミリプリントで巡回した。

4月13日 映画の楽校(高松)4プログラム サイレント映画活弁付上映 ゲスト:岡島尚志氏

8月16日～23日 川崎市アートセンター 2プログラム(短篇集合)「映画タイムマシン」「こどもわくわくワークショップ」サイレント演奏付上映

11月1～3日 山口情報芸術センター 4プログラム+短篇

11月8日、9日 金沢21世紀美術館 5プログラム+短篇 ゲスト:とちぎあきら氏ほか

(2) MoMA～ニューヨーク近代美術館映画コレクション

「The MoMA フィルム・ベスト ニューヨーク近代美術館映画コレクション」では、1935年の創設から今日まで世界のフィルム・アーカイブ運動、シネマテーク運動をリードし続けるニューヨーク近代美術館(MoMA)映画部門が所蔵するコレクションを、厳選されたビンテージ・プリントで上映、巡回した。

東京国立近代美術館フィルムセンター 10月24日(金)～11月9日(日)

来場者数 2581人(巡回作品のみ、全体では6167人)

神戸アートビレッジセンター 11月22日～11月28日 185人

広島市映像文化ライブラリー 12月3日～12月 658人

山口情報芸術センター 12月19日～23日 149人

金沢21世紀美術館 3月13、14、15日 292人

高知県立美術館 3月21、22、23日 281人

巡回作品

ビッグ・トレイル ラオール・ウオルシュ/暗黒の恐怖 エリア・カザン/**バンド・ワゴン** ヴィンセント・ミネリ

イタリアン・アメリカン マーティン・スコセッシ/**スウィート・スウィートバック** メルヴィン・ヴァン・ピーブルズ

悲しみよこんにちは オットー・プレミンジャー/**ウォーホルプログラム** THE VELVET UNDERGROUND AND NICO/OUTER AND INNER SPACE /FOUR OF ANDY WARHOL'S MOST BEAUTIFUL WOMEN

短編 ニューマン劇場のお笑い漫画 ウォルト・ディズニー/女の叫び・男の友情 D.W.グリフィス/ツーリスト マック・セネット/ニューヨークの地下鉄 ビリー・ピッツァー/フラッシングメドウズ ラリー・ジョーダン=ジョセフ・コーネル

※東京国立近代美術館フィルムセンターでは、このほかに8プログラムを上映。

[4] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) コミュニティシネマ賞 2013 授賞作品

『おばあちゃんが伝えたかったこと～カンボジア・トゥノル・ロ村の物語』の上映、巡回

山形国際ドキュメンタリー映画祭2013でコミュニティシネマ賞を授賞した『おばあちゃんが伝えたかったこと～カンボジア・トゥノル・ロ村の物語』を巡回した。東京での上映では、国際交流基金の協力を得て、連日トークショーを実施した。

8月2日～8日ユーロスペース、8月9日～8月15日川崎市アートセンター、8月30日～9月5日名古屋シネマテーク、8月30日～9月5日大分シネマ5、9月6日松本CINEMAセレクト、9月13日～19日第七藝術劇場、9月27日～10月3日金沢シネモンド、10月4日～10日シネマテークたかさき

(2) コミュニティシネマセンター製作『ASAHIZA～人間は、どこへいく』の上映、巡回

シネマエール東北の活動が契機となって、制作され、2013 年秋に完成したドキュメンタリー映画『ASAHIZA 人間は、どこへいく』は、2014 年 11 月に東京渋谷ユーロスペースで劇場公開され、連日トークイベントを開催、多くの観客を迎えることができた。その後、大阪、名古屋で劇場公開されたほか、大学や映画祭等、多くの会場で上映されている。（山形を除くすべての会場で藤井光監督のトークを実施）ドイツ、台湾、ニューヨーク（ジャパン・ソサエティ）など海外でも上映された。

『ASAHIZA 人間は、どこへ行く』 2013 年/ 74 分 /カラー/ブルーレイ 監督 藤井光

2014 年度上映会場一覧：

ユーロスペース、メゾンエルメス(東京)、せんだいメディアテーク、京都市立芸術大学、キャンパスプラザ(京都文教大学)、名古屋シネマテーク、第七芸術劇場、アーツ千代田 3331(3.11 映画祭)、山口情報芸術センター、茨城県民文化センター(ドキュメンタリー映画祭 310)、山形国際ドキュメンタリー映画祭(金曜上映会)、BLACKBOX(青森) 計 12 会場

(3) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

フレデリック・ワイズマン監督特集「偉大なるフレデリック・ワイズマン」

2015 年 1 月 31 日～2 月 13 日 会場・共催：シネマヴェーラ渋谷

21 作品上映 入場者数 3163 人

トーク・ゲスト：松江哲明（映画監督）、森岡龍（俳優・監督）、渡辺大知（ミュージシャン・俳優）

その他、当センターが保有する作品、配給委託作品の貸出を行った。

[5] その他の事業

ウェブサイトの運営、会員制度の充実など

ウェブサイトの改編作業を進めるなど、会員制度のさらなる充実を期し、団体会員の増加をはかった。